

社会資本総合整備計画

防災・安全交付金

令和05年11月30日

計画の名称	姫路市における災害に強い拠点づくり（防災・安全）													
計画の期間	令和04年度～令和08年度（5年間）											重点配分対象の該当	○	
交付対象	姫路市													
計画の目標	大規模な被害が想定される山崎断層地震や南海トラフ地震などの地震に加え、近年頻発する豪雨による風水害、土砂災害及び高潮災害を想定した自然災害に対応するため、強靱化の視点から効果的かつ重点的に、社会基盤の整備を推進するとともに、事前防災や発災時における被害の低減を図ることが急務となっている。 これを受け、「姫路市地域防災計画」に位置付けられた市内唯一の広域防災拠点である手柄山中央公園として、有事における食料や飲水などの市内全域への供給体制を確立するため、早期の被災者支援を可能とする救援物資の輸送路として園路広場や市民に緑と憩いを与える緑化施設等の整備を図り、災害に強い都市構造の実現を目指す。													
全体事業費（百万円）	合計（A＋B＋C＋D）		972	A	972	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C／（A＋B＋C＋D）	0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		（R3）		（R8末）
1	園路広場を整備し、避難時に収容人数を1,100人増加させる。 手柄地区における手柄山中央公園周辺施設の災害時に収容可能となる人数を166,100人（R3）から167,200人（R8）に増加させる。 手柄地区における避難可能人数の増加を測る。（地区における避難可能人数の計測）			
		166100人	人	167200人
2	救援物資搬入搬出経路を整備し、災害時の救援物資の運搬を可能とする。 災害時における食料や飲水などの市内全域への供給体制を確立するため、手柄山中央公園の救援物資の搬入搬出経路の整備率を0%から100%に増加させる。			
		0%	%	100%

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	○	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-

A 基幹事業																				
基幹事業（大）	番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	種別 1	種別 2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名 / 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況	
		一体的に実施することにより期待される効果																		
		備考																		
都市公園・緑地等事業	A12-001	公園	一般	姫路市	直接	姫路市	-	-	都市公園事業（手柄山中央公園）	園路・広場等（ 1 . 6 h a ）	姫路市	■	■	■	■	■	891	2.2	-	
	A12-002	公園	一般	姫路市	直接	姫路市	-	-	都市公園事業（手柄山中央公園その 2 ）	園路（ 3 9 0 m ）	姫路市			■	■	■	81	2.2	-	
											小計							972		
											合計							972		

交付金の執行状況

(単位：百万円)

	R04	R05	R06		
配分額 (a)	15	215	27		
計画別流用増 減額 (b)	0	0	0		
交付額 (c=a+b)	15	215	27		
前年度からの繰越額 (d)	0	10	0		
支払済額 (e)	5	225	27		
翌年度繰越額 (f)	10	0	0		
うち未契約繰越額(g)	0	0	0		
不用額 (h = c+d-e-f)	0	0	0		
未契約繰越率+不用率 (i = (g+h)/(c+d))%	0	0	0		
未契約繰越率+不用率が10%を超えている場合その理由					

事前評価チェックシート

計画の名称： 姫路市における災害に強い拠点づくり（防災・安全）

事前評価		チェック欄
Ⅰ．目標の妥当性		
上位計画との整合性 1) 上位計画等と整合性が確保されている。		○
Ⅰ．目標の妥当性		
地域の課題への対応 1) 地域の課題を踏まえて目標が設定されている。		○
Ⅱ．計画の効果・効率性		
目標と事業内容の整合性等 1) 目標と指標・数値目標の整合性が確保されている。		○
Ⅱ．計画の効果・効率性		
目標と事業内容の整合性等 2) 指標・数値目標と事業内容の整合性が確保されている。		○
Ⅱ．計画の効果・効率性		
目標と事業内容の整合性等 3) 指標・数値目標が市民にとって分かりやすいものとなっている。		○
Ⅱ．計画の効果・効率性		
事業の効果 1) 十分な事業効果が確認されている。		○
Ⅱ．計画の効果・効率性		
事業の効果 2) 事業連携等による相乗効果・波及効果が得られるものとなっている。		○
Ⅲ．計画の実現可能性		
地元の機運 1) 事業実施に向けた機運がある。		○
Ⅲ．計画の実現可能性		
円滑な事業執行の環境 1) 計画の具体性など、事業の熟度が高い。		○
Ⅲ．計画の実現可能性		
円滑な事業執行の環境 2) 計画について住民等との間で合意が形成されている。		○

(参考図面)

